

1 日比崎中学校における特別活動（話し合い活動の充実）のポイント
 なぜ特活，話し合い活動が必要なのか（令和元年度の取組成果）

日比中が育成を目指す資質・能力は

「表現力」「コミュニケーション能力」「主体性」

それらを伸ばす手段として，道徳や各教科で他者を受け止められる集団，話せる個人を育ててきた。
 本年度から，その取組を特活にも拡大。意見を言っても安心できる集団作り（特に，特活は，教科の力がなくても良い意見が言える）を行った。

そのための手立てとして力を入れたのが，学級活動における「話し合い活動の充実」である。

R01 年度の日比崎中の取組を振り返って【成果】

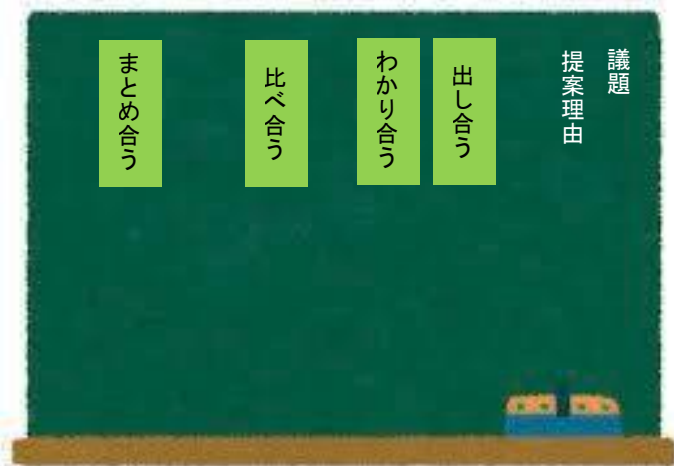
生徒の変容：話し合い活動の授業の振り返りで、「楽しかった」とか「達成感を感じた」など，自分たちの成長を実感していた。
 話し合い活動を自分たちで進めることができるようになった。
 学級活動を通して，活動のねらいや個々の目標が明確になり，主体的に学んでいる姿が見られた。

教職員の変容：学年がまとまって指導案を作成し，授業研究や研究大会に向けて全ての担任が授業を公開し，管理職や学年の教員を中心に参観し，意欲的に取り組むことができた。
 担任が連携をしながら，学年として単元づくりに取り組むことができた。
 意見を出し合い共通のゴールイメージをもつことができた。
 生徒に任せ，見守る時間が増えた。

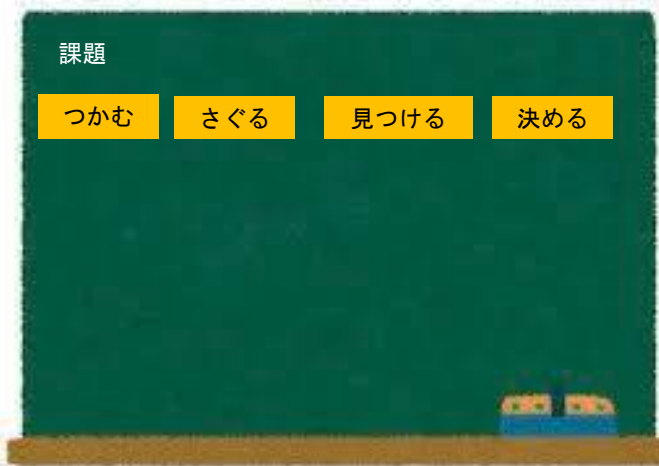
◎学級活動における話し合い活動には **2種類** のパターンが存在する。

学級活動（1）	学級活動（2）（3）
<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめたり，生徒たちで適切な決まりを作ったりする話し合い活動。 ・目指すところは「合意形成」。 ・個人の意見をもとに，学級の意見をまとめていく（「私は→私たちは」へ）。 ・議題，提案理由は，<u>生徒と一緒に考える</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人としての問題解決に向けた目標や方法・内容などを生徒自身で決定するための話し合い活動。 ・目指すところは「意思決定」。 ・話し合いで出た学級の意見を参考に，個人の意見を決める（「私たちは→私は」へ）。 ・題材は，<u>教師が意図的・計画的に作る</u>。

それぞれの学級活動の板書の形（原則）



※たて書き
メロンカードを使う



※よこ書き
オレンジカードを使う

◎ 1時間の授業（50分）の流れ（学級活動（1）の場合）

	話し合いの順序															
活動の開始	1 始めの言葉（副議長） 2 議題の確認（学級委員） ← 事前に議長団（4名）を選出し、昼休みや 3 提案理由の説明（学級委員） 放課後を使って、議題や提案理由について検討する。 4 先生の話															
活動の展開	5 話し合い （議長団で進める。議長団は話し合いに参加せず、全体の様子を見る。必要な場合は、担任の先生と打ち合わせ。） <u>(1) 出し合う</u> ①個人の考えを記入する（5分） ②4人班で意見を出し合い、ポイントをホワイトボードに記入する（7分） <u>(2) わかり合う</u> （8分） ・ホワイトボードに書いたことを他の班に説明する <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle; margin-left: 20px;"> <tr><td>1</td><td>～</td><td>班</td></tr> <tr><td>2</td><td>～</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>～</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>～</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>～</td><td></td></tr> </table> <u>(3) 比べ合う</u> （10分） ・自分達の班と同じ意見を見つけたり、異なる意見や疑問に思ったことに対して質問するなど、ホワイトボードに書いてあることに対して、理解を深める <u>(4) まとめ合う</u> （10分） ・議題と提案理由をもう一度ふりかえり、議題についての解決方法を、学級全体でまとめる	1	～	班	2	～		3	～		4	～		5	～	
1	～	班														
2	～															
3	～															
4	～															
5	～															
活動のまとめ	6 決定事項の確認（議長） 7 自己評価・感想の記入 8 先生の話 9 終わりの言葉（議長）															

◎話し合い活動の終了後

議長団でPDCAサイクル表をまとめる。

⇒今年度1年生の取り組みを他学年にも広げる。学級の歴史、高まりが目に見えるようになる。

◎日比崎中リーダーへの道

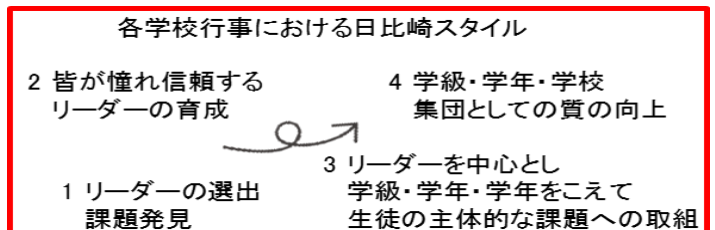
日比崎中学校の特徴の1つは、行事でリーダーを育てること。

1年生は、文化祭までの取り組みを通してリーダーを育て、12月の生徒会選挙にどれだけ立候補が出るかが目標となる。2年生は、文化祭は通過点であり、修学旅行がゴールとなる。そして、その取組が、3年生のええじゃん、体育大会につながっていき、学校のリーダーとして育っていく。

最終ゴールは、感動と涙と歌声と笑顔が溢れる卒業式での3年生の姿。このことを教員が共通してイメージをもち、ゴールから逆算していくことが望ましい。そして、リーダーに求められるものを、1年生のうちにどこまで鍛えるか、2年生なら…、3年生は…と、自分の学年の枠を越えて考えていく。

そのために、効果的に話し合い活動を使っていく。

1年生と3年生では話し合いの質がちがう（3年生は「さすが。しっかりと落ち着いている。教科でやってきたことの積み重ねが出る」）。



リーダーが憧れの存在（体育大会、文化祭）であるように、憧れられる議長団の育成（生徒総会）を目指す。「すごい先輩。自分もやってみたい」と思わせるような活動を仕組んでいく（そのために何かを決めていく）。

質問を先生にも投げかけ、先生たちもタジタジとなるような姿が見られたら理想的。議長団になる意義を伝え、今回は出来なくても、次回は挑戦してみようと期待をして声をかけて、長い目で見て育成していく。

